



熊野町立熊野第一小学校
令和5年5月19日
校長 水戸 美穂子

学びは子供たちの身の回りにはあふれています

「校長先生、学校のビオトープにタニシが97匹もいました。まだまだいると思います。」この子は以前、休憩時間にタニシとエビをビオトープで見つけたことを私に教えてくれていました。あの時から1か月間、この子にとってビオトープは心わくわくする場所で、ずっと好奇心をもって学びの探検をしていたようです。「でも、なんでここにタニシがたくさんいるのかな？おいしいものがあるのかな・・・。」すると、その様子を見ていた他の子が「エビは藻の間に隠れているよ。」そのアドバイスで藻の下を探し出す子供たち・・・この子の学びの探検はまだまだ続きそうです。子供たちの身の回りには学びの種があふれています。子供たちはその種を豊かな感性で見つけ出し、育てる力をもっています。また、その感性は誰かに話したり他の人と話し合ったりすることで輝きを増してきます。季節が変わる中でビオトープの植物や生き物も様子変化してきます。学校の裏の田んぼではカエルがゲコゲコ大合唱をしています。子供たちは感性というアンテナで今度はどんな学びの種をみつけてきてくれるでしょうか。その話を聞くのがとても楽しみです。

1年生を迎える会について

5月10日(水)に1年生を迎える会を行いました。感染状況を十分に考慮した上で会場は体育館としました。リモートでの行事にも大きな意味がありましたが、やはり全校児童が同じ場所で同じ楽しさを共有する素晴らしさを感じる貴重な行事になりました。教職員も久しぶりの感覚に感動を覚えていました。計画委員会の活躍で、第一小学校の1年生を温かく迎えることができました。



書道実技研修会について

5月17日(水)に、いつも低学年書道科でお世話になっている佐城先生をお招きして、教員を対象にした書道実技研修会を行いました。熊野と言えば熊野筆。書道の研修を通して、筆の都であることを子供たちにもしっかりと伝えていこうと気持ちを新たにしました。



「習ったことを子供にも伝えたい。」
「佐城先生の声に合わせて書くときやすかったので、普段に指導に生かします。」
「なかなか上手く書けなかったので、子供の気持ちがよく分かりました。」